

平成29年度第2回花巻市行政評価委員会（しごと部会）会議録

1 開催日時

平成29年7月6日（木） 午前10時～11時30分

2 開催場所

花巻市役所新館2階会議室

3 出席者

(1) 委員 5名

影山部会長、小山田委員、佐藤委員、戸来委員、高橋委員（※箱崎委員は欠席）

(2) 説明者（施策主管課） 1名

古川商工労政課長

(3) 事務局（施策及び事務事業評価担当課） 3名

秘書政策課：赤坂企画調整係長、瀬川上席主任

財政課：経営財務係菅原上席主任

4 議題

市が実施した施策評価のうち、花巻市行政評価委員会の評価対象施策である「商業形態の多様化」について評価を行った。

(1) 施策主管課による説明、質疑応答

(2) 委員会の評価結果集約

5 議事録

(1) 施策主管課による説明、質疑応答【主な意見・質疑等】

影山委員：商店街賑わい再生戦略事業について、直結度がBである。Bとした具体的な根拠は何か。成果指標の達成状況のBなのか？どこの資料を見ればよいのか。

古川課長：Aの基準は直結しているイメージ。直結しているとまでは言えないが、補完しているためBとした。この事業は即時的な効果があるものではない。セミナーをやったら翌年に成果がでるというものではなく、少し時間がかかるものであるためBとした。

影山委員：重要な事業ではあるけれども、即効性があるかということを考えるとBということには納得できるが、直結度を評価するための具体的な項目があって、その項目に従って評価できればわかりやすいのではないか。

影山委員：商店街賑わい再生戦略事業の石鳥谷の「ぷらっと」に関連して、まちづくり市民アンケートの買い物をする場所に関するクロス集計では石鳥谷中央商店街はどこの地域にあたるのか？

古川課長：好地地区である。

影山委員：好地地区では盛岡と紫波に10%ほど流れている。

佐藤委員：どうして若い人は市外へ買い物に行くのか？

高橋委員：衣類などは市内では品揃えが弱いと感じるようだ。

戸来委員：共働きが多く平日は買い物がなかなかできないため、土日にレジャーを兼ねて家族で食事をしながら買い物をする傾向がある。遠くに行けない方や週に何度も買い物に行ける方は地元で買い物をするようだ。

古川課長：アンケートの日常の買い物とは、食料品、トイレトペーパーなどのことだが、アンケートの回答者はそこを乗り越えて書いている傾向がある。

高橋委員：最近まちなかを見ると、水曜日以外は人が歩いている。マルカンの6階が開かれたことによるのではないか。たった一店でも、まちの人通りは変わる。商店街の人がどういう問題意識を持っているか、併せて見られれば分かりやすかったのではないか。

戸来委員：「満足度」と聞かれれば、今回のアンケート結果のようになると思うが、交通の便など市の政策全体で聞けば、また変わってくるのではないか。

小山田委員：商店街賑わい再生戦略事業については、施策1-3-2の「商店街の再生」の事業にすれば、直結度がAになるのではないか。本施策「商業形態の多様化」の事業は、インターネットを活用した事業者の支援などがテーマになるのではないか。それであれば直結度Aになるのではないか。

事務事業評価の成果指標の歩行者数9,000人は石鳥谷だけの数値か？

古川課長：花巻市全体の数値で、平日に数えている。平成27年度から28年度に大幅に減っているのは、マルカンが閉店した後の7月の調査のためである。

小山田委員：支所地域では商工会が商店街に対して助成している。花巻地域ではない。

佐藤委員：助成金が有効に使われているか検証が必要。

高橋委員：花巻市全体の商店数は減っているのか。

古川課長：減っている。新規で創業する方もいるが、それを上回って閉店している。

戸来委員：郊外は店がなくなってきている。後継者がいないし、生計を立てられるほど収入を得ることができない。

佐藤委員：高齢者は運転できなくなる。

高橋委員：花巻市内を巡回する移動販売は順調か。

古川課長：思わしくないようである。地域貢献の観点で事業を実施していただいている。ドライバー等の人件費や冷却装置のメンテナンスなど高上りになる。また、販売する商品の単価も店舗と同じにしている。信頼感を大事にして事業をやっていただいているが、ずっとこの状態であれば、どこかの時点で判断が入る懸念はある。

佐藤委員：買い物困難者は、今後ますます増えていく。

高橋委員：ニーズがあるのは確かである。生協の夕食サービスや戸配を利用する人が増

えてきている。コミュニケーションがとれる点でもいいと思う。色々な役割分担で組み立てていければ、買い物弱者がいなくなるのではないか。そしてただ届けばいいのではなく、コミュニティとの関わりを行政は考えていかなければならないのではないか。

佐藤委員 近所に高齢者が住んでいるが、ただものを置くだけではなく、呼び鈴を鳴らして渡すようにしている。鳴らしても出てこないと気になる。

影山委員：今後の方向性として、買い物困難者対策の事業の予算化を考えているのか？

古川課長：具体的には未定であるが、そういう方向になっていくと思う。買い物に困っている人と店の方との間に入る人をつくるなど、それが福祉なのか地域づくりなのかは検討の余地があるが、考えていかなければならない。

戸来委員：単独ではなく、連携しないといけない状況。福祉、交通関係、商業など全体で関わらないといけない。

影山委員：防災もある。

古川課長：命にかかわる問題でもある。栄養の偏りなど。

影山委員：商店街賑わい再生戦略事業について、応募したのは1件だけだったのか？

古川課長：事業は平成27年からである。石鳥谷の「ぷらっと」は国の緊急雇用事業で行っていたが、継続したいとのことで、花巻全域に同じように取組を行うところを募ったが、石鳥谷だけだった。補助が切れるとやめてしまうパターンが多いので、補助率を徐々に下げていき、最終的に自立してもらう制度設計にしている。

小山田委員：商店街賑わい再生戦略事業の事務事業評価シートの総合評価で集客数が増えていると評価しているが、成果がCとなっている。定性評価ではもっと成果が高くても良さそうなものだが。

古川課長：実際に事業を実施している石鳥谷地域だけに絞れば、もっと成果指標の数値が上がると思われるが、市全域をカバーする補助金のため、花巻市全体の評価としてはこうになってしまう。

佐藤委員：他市町村では空き店舗利用の補助などもあるようだが。

古川課長：施策1-3-2「商店街の再生」に創業支援がある。以前は家賃補助を出していたが、補助が切れるとやめてしまうという傾向があったことから、今は改装費用や広告費用に対する補助に切り替えている。

佐藤委員：若者の定着につながる可能性がある。後継者の育成もできる。

高橋委員：マルカンの例のように人が通るだけで違う。商店街の方は課題としてとらえているのか？

古川課長：とらえている。今はリノベーションまちづくりが進められている。空き店舗を活用する動きが盛んで、また、そういう方に商店街の方が場所を提供する流れもできている。

高橋委員：中心部のシャッター通りを歩きながら、市は将来どうするのかと考える。

古川課長：厚生病院や誠山房跡地の活用など新しいまちづくり少しずつ動いている。
郊外の開発で中心部は空洞化しているが、人口減少が進むなか今後はコンパクト化しなければならない。人が住むと商業機能が備わる。

佐藤委員：道路が1本通っただけで人通りが違う。

小山田委員：社会資本を再利用すべき。郊外に広げるとコストがかかる。

高橋委員：まちの形態は変わらざるを得ない。

影山委員：商業だけでなく、地域、都市計画、コミュニティなど、少子高齢化により様々なことを見直されなければならない。

小山田委員：買い物困難者対策事業の直結度、Bとなっているが、新しい商業形態としてAとしていいのではないか。

高橋委員：買い物困難者の内訳があってもいいのではないか。まちなかに住んでいても、困難者ではないとは言えない。

(2) 委員会の評価結果集約【施策評価検証シート】

◇①施策を構成する事務事業の評価・検証について

→施策への貢献度について、直結度の評価はBではなくAが的確ではないか。

直結度の評価基準が明確ではなく、わかりにくい。直結度の客観的な判断基準を明らかにすべき。

「5施策を構成する事務事業の検証」は的確である。

◇②施策の成果指標及び達成状況の分析について

→的確であるが、今後、日常の買い物の中身について分析、対策が必要ではないか。

県の購買動向調査などの統計を参考にしてはどうか。

◇③施策の総合的な評価について

→的確であるが、課題の文章表現がわかりにくい。今後の方向性としては、石鳥谷の小さな百貨店「ぷらっと」の成果を広げるという課題を付け加えてもいいのではないか。(既存の商店街の人が新しい流れに対応できていないところを支援する。)

◇④シート記載内容について

→直結度について客観的な判断基準を明記した方が良い。